

服部商店の原点

2024 年 6 月 19 日(水曜日) に、北海道新日高町・静内に有る賀集産業(株)さん（現在広葉樹製材工場は閉鎖されています。）を慶弔訪問してきました。先方の社長のお母さんが亡くなったのは今年の初旬でした。

連絡を頂いた時厳冬の時期だったのでご挨拶を 6 月迄伸ばさせて下さいと返事して今回ご挨拶に行って参りました。

小生が初めて賀集産業さんを訪問したのが中学 3 年生の 15 歳です。小生の記憶だけでも 50 年以上の歴史があります。現在の服部商店の礎を築かせて頂いた重要な仕入れ先でした。

服部商店という店は、およそ 60 数年昔からカツラ材を主に扱ってきました。用途は碁将棋盤・折板・額縁用材・印材・家具用側板・学校教材・彫刻材等の幅広い用途の全国の御客様に御購入頂いていました。亡き父親が桂材を主な商材に決めるに当たって北海道中のカツラ材を製材している、各地の製材工場を当時列車で回ったと聞いています。服部商店は昔から現在も変わらない原則（最高の産地の材を扱うことが最も大事）を基に賀集産業と取引が出来ないかと苦闘したとも聞いています。まともな商いにして頂くのに数年の年月が掛かったとも聞いています。そのおかげで最盛期には毎月カツラ材製品をトレーラー満載で 20 年近く 1 か月に 2 車納材して頂きました。

当時のカツラ材は現在のカツラ材とは全く違います。乾燥すると赤身の色合いが卵色になります。シラタも薄い高品質な材が殆どでした。日高産の最高品質な緋カツラですが、現在は残っている緋カツラを育む森林は全て保護林に指定されている為に、本当のカツラ材ってこんな色とご説明出来ない状況でもあります。

賀集産業さんの製材工場は 3 つ有りました。日高林産協同組合・北海物産・賀集産業本社工場です。服部商店は主に日高林産協同組合と北海物産の二工場からの製材品が主でした。

本社工場（ナラ材の輸出の為に作られた工場）は凄く立派な工場ですが、立派な工場ほどカツラ材の製材には向かないのです。

カツラ材は北海道産の他の樹種と違い、製材サイズが比較的短い材から商材になるので小規模で小回りの利く工場の方が良質材を安定供給できるのです。

現在の服部商店の製材工場のレイアウトも賀集産業の子会社の日高林産と北海物産の良さを取り入れて、岸和田の 1,000 坪の敷地に合うレイアウトにしました。

服部商店の工場は小規模ですが、最も効率よく高品質な製品を製材出来る設備だと思っています。このアイデアも賀集産業さんのお陰だと思います。



広葉樹専門工場の規模

日本国の膨大な森林資源の殆どは植林された針葉樹です。資源量は、使いきれない量があります。政府も有り余っている針葉樹を使う為に様々な取り組みをしています。CLT（直行集成材）や針葉樹合板や木材バイオマス発電等を日本全国に普及させる為に大規模なプロジェクトを進めています。

針葉樹は既製品が主流です。またの名を一般材と呼ばれています。サイズが一定で、量は桁違いの量で動きます。従って大規模な工場が向いています。

他方広葉樹は針葉樹と違い、現在の日本の仕組みでは量産に向いていません。広葉樹は針葉樹と違い、大手製材工場でも量産効果つまり規模の優位性は針葉樹製材工場から見たら格段落ちます。

広葉樹も日本全国で効率的な資源の生産方法に取り組んでいます。この取り組みは正しいと考えていますが、問題点も多くあります。広葉樹と針葉樹の差を整理します。

- ① 産地による違い。（寒冷地の方が良い。目が細かく育つ）
- ② 原木の個体差が針葉樹より大きい。（姿・形・欠点の差が歩留りに大きく差が付く）
- ③ 針葉樹は英語で soft wood 広葉樹は英語で hard wood つまり硬さが違います。

①～③の要素が大きい為、日本で一番大きい広葉樹工場と服部商店の工場を比較します。（比較する場合 1 ラインの比較です。）

- ① 大手製材工場の 1 ライン当たりの製材数量は 1 日 50 m³位です。弊社は 7 m³位です。
- ② 大手製材工場も弊社も、最も効率良く製材する原木は良質原木です。
- ③ いずれの広葉樹製材工場も製材サイズはおおよそ決まっています。違いは製材を丁寧に行うか否かの違いだと考えています。弊社は限られた原料を徹底的に大事に扱う工場スタイルです。

①～③の違いは下記の事で証明されています。

今からおよそ 40 数年昔、有名な建材メーカーが木質建材の新しい画期的な商品を開発しました。その原材料を継続して供給する為に北海道の田舎の工場に技術指導を行い、専属工場にしましたが、工場の規模は大きくありません。1 日 15 m³程度の製材工場です。

（現在も稼働しています）日本国内の広葉樹資源を上手く利用する為には、様々な方法を選択することが正しい森林経営の方法だと思います。

森林伐採を行っている東北や北海道の生産者は、現在低迷している針葉樹の生産を減らして広葉樹を主に生産していますが、広葉樹の生産余力は少ないです。また森林という生き物を継続して育む為には、自然に近い森林に戻すことしか選択肢がありません。ということは、少しでも高く原料を買える体制を作ることが材木屋の責任だと考えています。零細な工場でも大規模な工場に正々堂々勝負出来る資源は広葉樹だと考え、服部商店らしい工場運営を日夜考えて行動しています。

広葉樹は針葉樹ほど規模のメリットは少ない資源だと考えています。

製品市と針葉樹の今後

2024 年 6 月 7 日奈良県桜井市菅生木材市場の市に 2 回目の買い付けに出かけました。購入させて頂いたのは吉野産の杉の 45 ミリ柾目板です。（前は 36 ミリの柾目板を購入しました。）

前回の 4 月の市には知り合いの同業者は 3 社お見えになりましたが、今回は 40 年昔勤めていた会社（東海木材相互市場参加浜間屋・名古屋市売り木材、廃業しています）の元同僚が取り引きしていた会社の社長との出会いでした。お話の主な内容は以下です。

何故材木屋が凋落してしまったか（40 年昔当時は国内産針葉樹の最も華やかな時代でした。当時の事を知っているのは 65 歳以上の方に限られてきています）です。

具体的な話は割愛します。お名刺の交換をしましたので時間を作って先方を訪問しようと思っています。

お互い針葉樹と広葉樹と扱い品目は違いますが、先々これから何をすべきかを、できたら利害関係を越えてお話出来たらと考えています。

針葉樹と広葉樹の比較を整理しました。

	針葉樹	広葉樹
国内産の蓄積量	◎	△
優良材の有無	◎	△
家具向けの耐久性	△	◎
単価	比較的安い	高騰している
海外材の関係①	国内産で賄える	国内産で賄えない
海外産地の状況	△	△
国内産の持続可能性	◎	△
相対的品質	◎	△

建築の構造材や和室等に使われるのが国内産針葉樹です。家具や木工製品に使われるのが広葉樹という大まかな分け方が現に存在しています。しかし外部に使われる材が劇的に変化してきていることに気が付いていますか。例えば、大阪で開催される万博の円形の建物は国産針葉樹材が主に使われています。1970 年に開催された万博ではカナダ館に米松の原木を立てて使われました。

勿論建物の建て方も大幅に変わり CLT（直交集成板）という新しい工法が誕生してきたおかげで、あらゆる木材の需給バランスは変化を齎す可能性が出てきたと思います。

それだけに終らすのではなく積極的に国内産針葉樹を使わざるを得なくなる可能性も出てきています。為替が 1 ドル 200 円の時代が来たと仮定します。一部の家具を除いてヒノキ・スギの家具が主流になることも考えなければならないと思っています。

***現在の日本の財政赤字と為替レートが連動していると仮定し、もしプライマリーバランスが好転しない場合 1 \$ = 200 円の時代が来る可能性は有ると思っています。**

恒例の材木屋の旅行から見えてくる将来

2024年6月8日～9日の日程で兵庫県温泉町にある湯村温泉に出かけて来ました。小生は幹事ではないので選択した理由は知りませんがインバウンドで大盛り上がりのお金を離れた方が良いのではという判断だと思います。

井筒屋さんに宿泊しました。世間で言う四つ星に該当していると言うより、過去に昭和天皇様がいらっしゃっていますから超一流の宿泊施設です。



ところで参加者は8名ですが後継者が決まっている会社は1社しか有りません。この事態は凄く深刻です。表面的には誰もそのことに触れようとはしませんでした。参加者全員に危機意識がある事だけは理解できました。

要は如何にすべきかの具体的な行動方針が出来にくい材木屋の体質に有ると小生は考えています。

今回の旅行は広友会と言う親睦団体主催ですが、25年昔の参加者の会社リストを見るとおよそ50社の材木屋が有りました。25年の時間で六分の一以下になってしまったのです。

服部商店も同じように後継者問題が起こっています。現在大学院一回生の次男が休学してアルバイトしてくれています。後継者問題を簡単に解決する手段なんて無いとは思いますが、下記の3つの項目が大事だと考えています。

- ① マーケットから必要とされる業界になること。→ 顔が見える会社へ。
- ② プロ意識を常に持つ業界になること。→ 誰にでも説明出来る能力が有ること。
- ③ 対価と報酬が正しく評価される業界。→ 儲かる会社への進化。

3項目を今の時代に活かす方法は、各会社に様々な方法が有ると思います。服部商店は以下の様に考えています。

- * 材木屋の常識だから出来ないと言う言い訳はしない。ビジネスモデルの改革。
- * コスト競争からバリューの競争に移行すること。価値の改革。
- * 通常業務の仕事の中にあるヒントの創出。何時も WHY（何故）と思う意識改革。
- * 有限資源の木材資源を人類の持っている想像力で無限の使い方を提案する頭脳改革。
- * 苦は悪、楽は善だと言う考え方。発想革命。

上記の5項目は我々日本人に求められていることと同じだと考えています。それが出来ないのであれば日本は確実に衰退していくと思います。

2,000年以上の歴史が有ると言う言葉を日本人はよく使いますが、本当に歴史に恥じない生き方をすることが後継者問題を少しでも解決する手段ではないかと考えます。